

10~12月期の業況は小幅な低下
【特別調査】 - 「2019年(平成31年)の経営見通し」

【調査要領】
 調査時点：2018年12月上旬
 調査対象：西兵庫信用金庫お取引先102社
 調査方法：調査票を用いた面接による聞き取り調査
 調査企業数：102社
 調査票回収：101社
 調査対象地域：西播磨地域（宍粟市、相生市、赤穂市、たつの市、揖保郡、赤穂郡、佐用郡）

分析方法：D.I. (デフュージョン・インデックス) による分析
 景気の方角感を判断するために使う指数。各質問項目で、「良い」と答えた割合から、「悪い」と答えた割合を引いて算出する。

回答企業の業種別内訳

業種	回答企業数
製造業	31
卸売業	11
小売業	17
サービス業	19
建設業	18
不動産業	5
総計	101

分析例：
 (良い) 50% - (悪い) 25% = (D.I.) 25

	良い	普通	悪い	合計
回答数	10	5	5	20

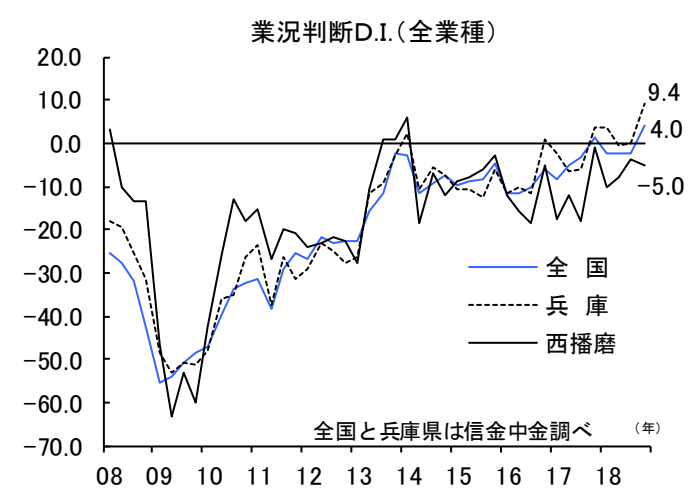
全業種総合

~景況感は小幅な低下~
 18年10~12月期(今期)の業況判断D.I.は△5.0と、前期比1.1ポイント低下した。前期に比べ業況が「良い」と回答した企業の割合が2.2ポイント増加したが、「悪い」と回答した企業の割合が3.2ポイント増加したことによる。

前期に比べ売上額は増加したが、仕入価格の上昇により収益が低下したことが主な要因である。

前年同期比の売上額判断D.I.は5.0と前期比0.9ポイント低下し、同収益判断D.I.は△6.9と前期比11.8ポイント低下した。

業種別の業況判断D.I.は、製造業・サービス業・建設業で改善し、卸売業は・小売業・不動産業で低下した。

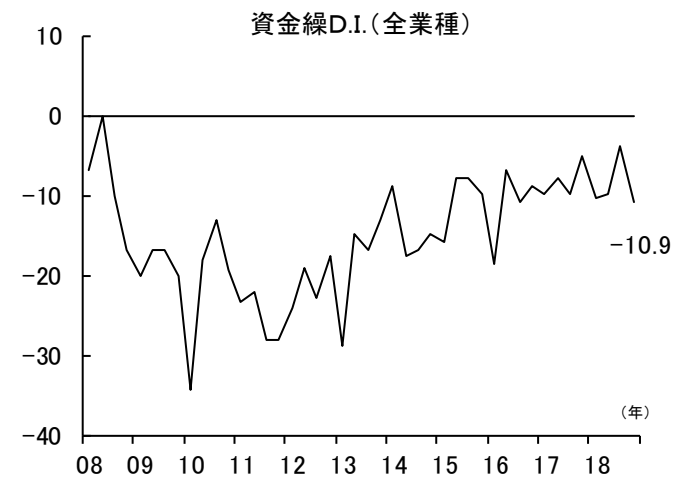


過去4四半期の業況判断D.I.を平均して判定

時期	2018年7~9月	2018年10~12月	2019年1~3月(見通し)
総合	晴	曇	曇
製造業	晴	曇	曇
卸売業	曇	曇	雨
小売業	雨	雨	雨
サービス業	曇	曇	曇
建設業	曇	曇	曇
不動産業	曇	曇	曇

天気アイコン：快晴、晴れ、晴れ時々曇、うす曇、曇、雨、大雨

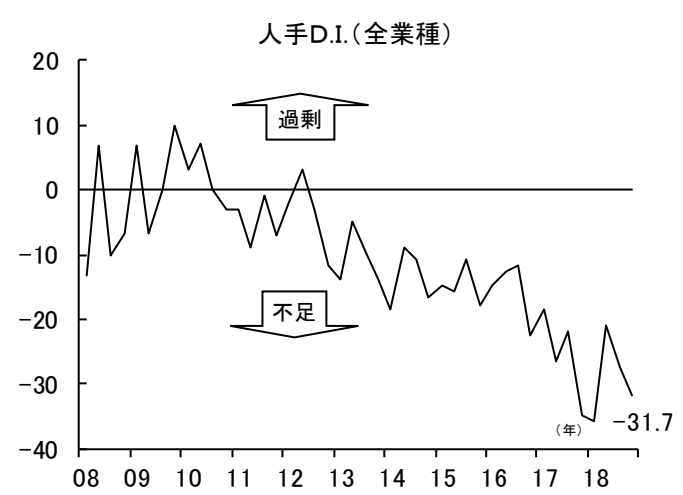
好調 ← → 低調



~販売価格判断D.I.は改善・仕入価格判断D.I.は上昇~
 販売価格判断D.I.は4.0と、前期比2.0ポイント改善した。仕入価格判断D.I.は、27.7と前期比4.2ポイント上昇した。

~資金繰判断D.I.は低下~
 資金繰判断D.I.は△10.9と、前期比7.0ポイント低下した。

業種別では、製造業が前期比13.0ポイント改善した。一方、卸売業が同27.3ポイント、サービス業が同21.0ポイント、小売業が同5.9ポイント、建設業が同5.5ポイント、不動産業が同40.0ポイント低下した。

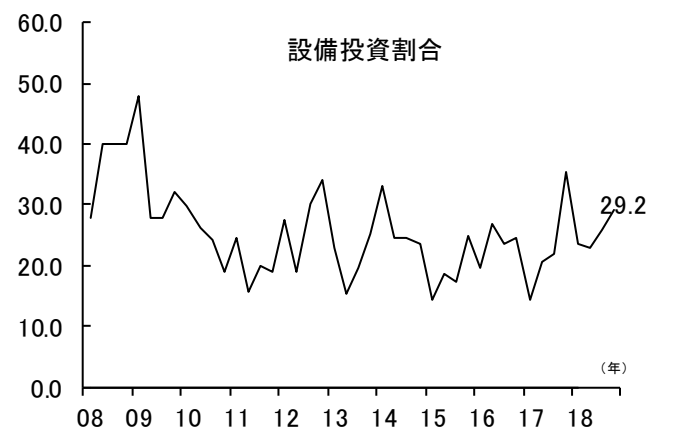


~人手過不足判断D.I.(過剰-不足)は、人手「不足」感が強まった~

雇用面では、人手過不足判断D.I.が△31.7(マイナスは人手「不足」超)と、マイナス幅が前期比4.2ポイント拡大し、人手不足感が強まった。

残業時間判断D.I.は5.0と、前期比4.0ポイント増加した。残業時間が「減少」とする企業の割合が減る以上に、「増加」とする企業の割合が増えている。

~設備投資実施企業割合は増加~
 設備投資実施企業割合(不動産業を除く企業のうち設備投資を実施した企業の割合)は29.2%と、前期比3.4ポイント増加した。



~来期の景況感は今期実績比低下の見通し~
 来期の予想業況判断D.I.は△6.9と、今期実績比1.9ポイント低下の見通しとなっている。

業種別の予想業況判断D.I.は、卸売業が今期実績比9.1ポイント、小売業が同23.6ポイント、不動産業が同60.0ポイントそれぞれ改善する見通しである。一方、製造業が同22.6ポイント、サービス業が同10.5ポイント、建設業が同5.6ポイントそれぞれ低下する見通しである。

経営上の問題点

順位	全業種	割合
1位	売上の停滞・減少	46%
2位	人手不足	39%
3位	利幅の縮小	27%
4位	原材料高	19%
5位	同業者間の競争の激化	18%

<経営上の問題点>
 経営上の問題点としては、「売上の停滞・減少」が46%、「人手不足」が39%、「利幅の縮小」が27%、と多く、その他では「原材料高」が19%、「同業者間の競争の激化」が18%となっている。

<当面の重点経営施策>
 当面の重点経営施策としては、「経費を節減する」が54%、「販路を広げる」が43%、「人材を確保する」が42%と多く、その他では「情報力を強化する」が12%、「機械化を推進する」が9%、「提携先を見つける」が7%となっている。

当面の重点経営施策

順位	全業種	割合
1位	経費を節減する	54%
2位	販路を広げる	43%
3位	人材を確保する	42%
4位	情報力を強化する	12%
5位	機械化を推進する	9%
6位	提携先を見つける	7%

※2009年12月期までは、信金中金が「全国中小企業景気動向調査」として実施している当金庫調査対象30先のデータであり、2010年1月以降は、新たに調査対象先を追加し西播磨地域に限定したデータとなっている。

製造業

業況判断D.I.(製造業)



～製造業の景況感は改善する～

今期の業況判断 D.I.は 22.6 と、前期比 19.5 ポイント改善した。

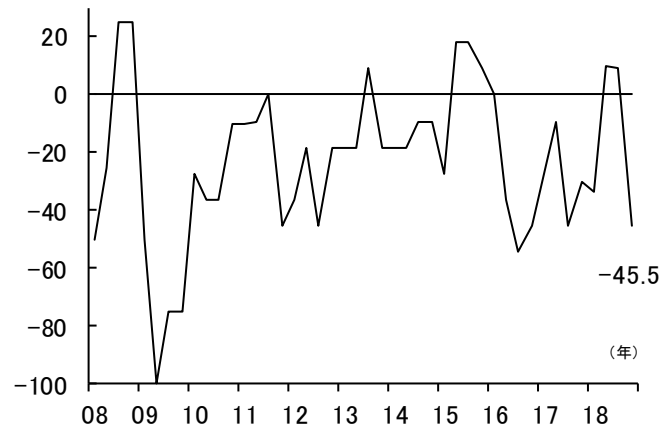
前年同期比売上額判断 D.I.は 25.8 と、前期比 16.4 ポイント改善し、同収益判断 D.I.は 12.9 と、前期比 9.8 ポイント改善した。

設備投資実施企業割合は 38.7%と、前期に比べて 16.8 ポイント改善した。資金繰り判断 D.I.は 16.1 と、前期比 13.0 ポイント改善した。人手過不足判断 D.I.は、 $\Delta 41.9$ (前期は $\Delta 20.0$) と、人手不足感は強まった。

来期の予想業況判断 D.I.は 0.0 と、今期実績比 22.6 ポイントの低下を見込んでいる。

卸売業

業況判断D.I.(卸売業)



～卸売業の景況感は大幅に低下する～

今期の業況判断 D.I.は $\Delta 45.5$ と、前期比 54.6 ポイントの低下となった。

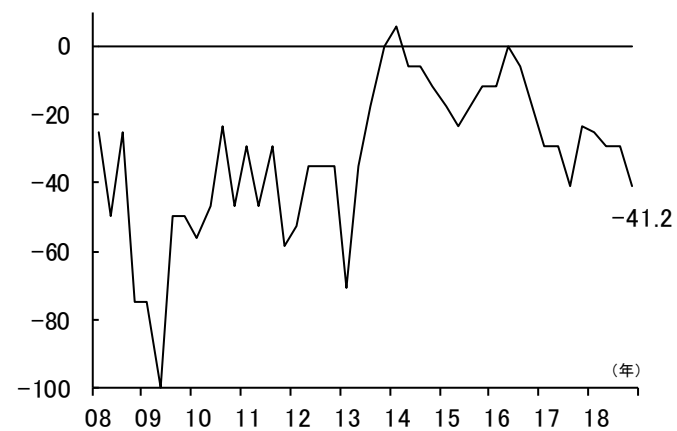
前年同期比売上額判断 D.I.は $\Delta 27.3$ と、前期比 27.3 ポイントの低下となり、同収益判断 D.I.は $\Delta 36.4$ と、前期比 36.4 ポイント低下した。

資金繰り判断 D.I.は $\Delta 9.1$ と、前期比 27.3 ポイント低下した。人手過不足判断 D.I.は、 $\Delta 18.2$ (前期は $\Delta 18.2$) と、人手不足感は横ばいとなった。

来期の予想業況判断 D.I.は $\Delta 36.4$ と、今期実績比 9.1 ポイントの改善を見込んでいる。

小売業

業況判断D.I.(小売業)



～小売業の景況感は低下する～

今期の業況判断 D.I.は $\Delta 41.2$ と、前期比 11.8 ポイント低下した。

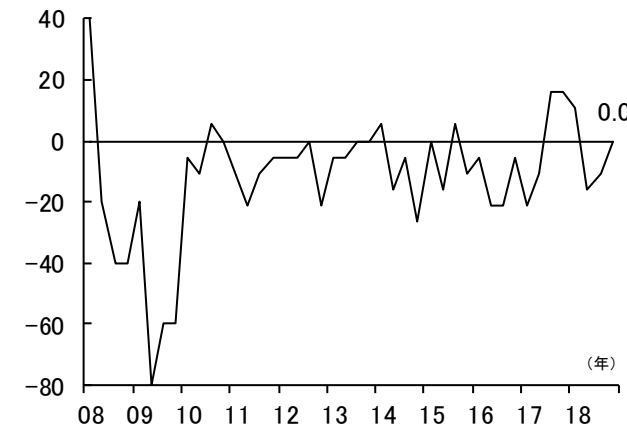
前年同期比売上額判断 D.I.は $\Delta 23.5$ と、前期比 23.5 ポイント低下し、同収益判断 D.I.は $\Delta 35.3$ と、前期比 35.3 ポイント低下した。

資金繰り判断 D.I.は $\Delta 35.3$ と、前期比 5.9 ポイント低下した。人手過不足判断 D.I.は、 $\Delta 17.6$ (前期も $\Delta 17.6$) と、人手不足感は横ばいとなった。

来期の予想業況判断 D.I.は $\Delta 17.6$ と、今期実績比 23.6 ポイントの改善を見込んでいる。

サービス業

業況判断D.I.(サービス業)



～サービス業の景況感は改善する～

今期の業況判断 D.I.は 0.0 と、前期比 10.5 ポイント改善した。

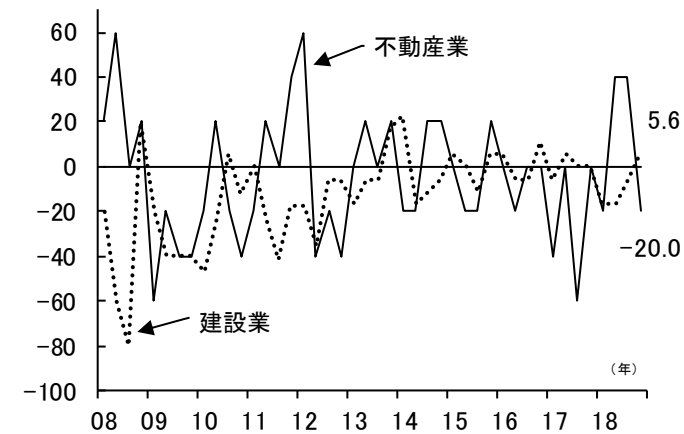
前年同期比売上額判断 D.I.は 0.0 と、前期比 5.3 ポイント改善し、同収益判断 D.I.は $\Delta 10.5$ と、前期比 10.5 ポイント低下した。

資金繰り判断 D.I.は $\Delta 26.3$ と、前期比 21.0 ポイントの低下した。人手過不足判断 D.I.は、 $\Delta 26.3$ (前期は $\Delta 36.8$) と、人手不足感は弱まった。残業時間判断 D.I.は 21.1 と、前期比 15.8 ポイント上昇した。

来期の予想業況判断 D.I.は $\Delta 10.5$ と、今期実績比 10.5 ポイントの低下を見込んでいる。

建設業、不動産業

業況判断D.I.(建設・不動産業)



～建設業の景況感は改善する～

今期の建設業の業況判断 D.I.は 5.6 と、前期比 11.2 ポイント改善した。前年同期比売上額判断 D.I.は 16.7 と、前期比 11.1 ポイント改善した。同収益判断 D.I.は 0.0 と、前期比 5.6 ポイント低下した。受注残判断 D.I.は 27.8 と、前期比 27.8 ポイント改善した。

資金繰り判断 D.I.は $\Delta 22.2$ と、前期比 5.5 ポイント低下した。人手過不足判断 D.I.は、 $\Delta 38.9$ (前期は $\Delta 44.4$) と、人手不足感は弱まった。来期の予想業況判断 D.I.は 0.0 と、今期実績比 5.6 ポイントの低下を見込んでいる。

～不動産業の景況感は低下する～

不動産業については、調査対象先の少なさを考慮する必要があるが、今期の業況判断 D.I.は $\Delta 20.0$ と、前期比 60.0 ポイント低下した。前年同期比売上額判断 D.I.および同収益判断 D.I.ともに 20.0 と、それぞれ前期比 40.0 ポイント低下した。資金繰り判断 D.I.は 0.0 と、前期比 40.0 ポイント低下した。在庫過不足判断 D.I.は $\Delta 20.0$ と、前期比横ばいとなった。来期の予想業況判断 D.I.は 40.0 と、今期実績比 60.0 ポイントの改善を見込んでいる。

調査員のコメント

製造業：東南アジア向けの受注が好調。人手不足を時間外勤務で対応している。今後設備更改や人員増加等を考える必要がある。

卸売業：台風・豪雨等の影響で設備等に損壊が遭った他、配送がストップしてしまい収益に影響が出た。物流経費も増加し収益悪化した。

小売業：仕入は価格引き上げ、販売は価格引き下げ圧力が強く、利幅の縮小が懸念される。

サービス業：業況は上向きで順調である。今後も同様に推移する見通しである。

建設業：業況も良く、仕事の受注、売上、利益増加傾向であり、今後は公共工事も増えてくる。ただし、設備や人員が不足しており、特に人材確保が課題である。

不動産業：売上低迷しており、営業力強化が課題である。分譲地販売に注力する。